

- 【問四】 (1)、(2)の文から、誤って使われている漢字一字をそれぞれ書き抜き、同じ読みの正しい漢字を書きなさい。
- (1) 環境や景観に配慮した市役所の新しい庁社の建設計画が進められている。
- (2) 学校図書館で定期購読している雑誌を、係の生徒が本棚に順助よく並べる。

- 【問五】 (1)、(2)の文から、誤って使われている漢字一字をそれぞれ書き抜き、同じ読みの正しい漢字を書きなさい。
- (1) 町の伝統文化を守る取り組みが、地域住民の思持を得て進められている。
- (2) 施設の利用許可を受けるため、提出書類に必要な事項を記入して信請した。

- 【問六】 次のa～dの各文中の——線をつけたカタカナを漢字に表したとき、その漢字と同じ漢字を含むものを、あとの1～4の中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。
- a エンチュウの体積を求める。
- 1 ピアノをエンソウする。 2 会議をエンカツに進める。 3 友人とソエンになる。 4 ガンエンを料理に使う。
- b 会員としてトウロクする。
- 1 富士山のトウチヨウに成功する。 2 伝家のホウトウを抜く。 3 熊がトウミンする。 4 国会でトウシユが討論を行う。
- c 公民館のキノクを守って楽しむ。
- 1 太陽の動きをカンソクする。 2 ヤクソクを果たす。 3 管理に関するサインクを定める。 4 キュウソクをとる。
- d 税金をオサめる。
- 1 関係をシユウフクする。 2 ストープにキユウユする。 3 運動会をケツセキする。 4 毎日ナットウを食べる。

解答用紙

50 ページ

模範解答

59 ページ

【問三】 次の文章を読んで、下の各問いに答えなさい。

今は昔、木こりの、山守に斧を取られて、わびし、心憂しと **A** 思ひて、
(困った) 頬杖突きてをりける。山守見て、

「よるべき事を申せ。取らせん。」と **B** いひければ、
(何か気のきいた歌) (返してやろう)

悪しきだになきはわりなき世間によきを取られてわれいかにせん
(悪) (困る) (うつしたらよいか)

と詠みたりければ、山守返しせんと思ひて、「うううう。」と呻きけれど、えせざりけり。さて斧返し取らせて
(詠歌をしよう) (うなづいた)

ければ、嬉しと思ひけりとぞ。 **C** 人はただ歌を構へて詠むべしと見えたり。
(常) (心) (かけて) (歌を) (詠む) (ように) (する) (の) (が) (よい) (思われる)

〔宇治拾遺物語〕より

(注) 山守……山の番人。

斧……木を切る道具で、「おの」のこと。

頬杖……ほおづえ。

(一) 文中A——「思ひて」を現代仮名遣いで書きなさい。ただし、すべて平仮名で書くこと。

(二) 文中B——「いひければ」の主語となる人物を、文中から抜き出して書きなさい。

(三) 次の会話文は、夏子さんたちが、本文について話し合ったときの会話の一部である。これを読んで、後の①、②の問いに答えなさい。

夏子さん 和歌にある「よきを取られて」の「よき」は「おの」という意味だから、和歌の後半は「おのを取られて自分はどうしたらよいか」という意味だよ。

冬実さん それだけかな。和歌の前半にある「悪しき」に着目すると、「おのを取られて」以外にも、「を取られて」という意味があるはずだよ。

春雄さん そうか。和歌では一つの言葉に二つの意味が込められているときもあるんだね。とっさに詠んだ和歌にそんな工夫があるなんて、昔の人はすごいね。

千秋さん 昔の人すべてがそうだったわけではないと思うな。本文の最後に「人はただ歌を構へて詠むべしと見えたり」と書かれているからね。

① 会話文中 には、「よき」に込められたもう一つの意味が入る。当てはまる言葉として適切なものを書きなさい。

② 千秋さんは、文中C——「人はただ歌を構へて詠むべしと見えたり」に着目しています。本文の最後が「常に心かけて歌を詠むようにするのがよい」という内容の一文でまとめられているのは、おのを取られた木こりにどのようなことがあったからですか、書きなさい。

の畑に在るだから』って言ってたものだ。』

再びヨシ江に礼を言つて、雪乃は外へ出た。

あたりはもう充分に明るい。朝焼けの薔薇色もすでに薄れ、青みのほうが強くなつてゐる。すっかり春とはいへ、この時間の気温は低くて、息を吸い込むとお腹の中までひんやり冷たくなる。

よその家の納屋に明かりが灯つてゐる。どこかでトラクターのエンジン音が聞こえる。農家の朝はとつくに始まつてゐるのだ。大きく深呼吸をしてから、³雪乃は、やっぱり走りだした。

長靴ががぼがぼと鳴る。まっくらくけしてつくりけることのないように気をつけながら、舗装された坂道を駆け上がる。ふだん軽トラックですすい登る坂が、思ったよりずっと急であることに驚く。

息を切らしながらブドウ園の手前を左へ曲がり、砂利道に入つてなおも走ると、畑が見えてきた。整然とのびる畝の間に、紺色のヤッケを着て腰をかがめる茂三の姿がある。急に立ち止まったせいで足がもつれ、危うく本当に

つくりけりそうになつた。

「シ……。」

張りあげかけた声を飲みこむ。

ヨシ江はあんなふうに言つてくれたけれど、ほんとうに茂三は怒つていないだろうか。少なくとも、すごくあき

れているんじゃないだろうか。謝ろうにも、この距離ではどんなふうにも切り出せばいいかわからない。

布巾でくるまれたおにぎりをそつと抱え、⁴立ち尽くしたままためらつてゐると、茂三が立ちあがり、痛む腰を

伸ばした拍子にこちらに気づいた。

「おう、雪乃。やーつと来ただかい、寝ぼすけめ。」

笑顔とともに掛けられた、からかうようなそのひと言で、胸のつかえがすうつと楽になつてゆく。手招きされ、

雪乃はそばへ行つた。

「ごめんなさい、シゲ爺。」

「なんで謝るだ。」

ロゴの入つた帽子のひさしの下で、皺ばんだ目が面白そうに光る。

「だってあたし、あんなえらそうなこと言つて……。」

「それでも、こやつて手伝いに来てくれただに。」

「それは、そうだけ……。」

「婆やんに起こされたか？」

「ううん。知らない間に目覚ましを止めちゃつたみたいで寝坊したけど、なんとか自分で起きたよ。」

起きたとたんに(げえつ)て叫んじやつた、と話すと、茂三はおかしそうに笑つた。

「いやいや、それでもてえしたもんだわい。いつつ、婆やんがぶつくさ言つてるだに。『雪ちゃんは、起こしても起こしても起きちゃこねえ(たいたもんだ)でおえねえわい』つて。それが、いっぺん目覚まし時計止めて、それでもなお自分で起きたつちゆうなら、そりゃあなおさらてえしたことだほー。」

「……シゲ爺、怒つてないの？」

「だれえ、なーんで怒るう。起きようと自分で決めて、いつもよりかは早く起きただもの、堂々と胸張つてりやい

いだわい。」

⁵雪乃は、頷いた。目標を半分しか達成できなかったのに、半分は達成できた、と言つてくれる曾祖父のことを、改めて大好きだと思つた。

(注) ヨシ江＝雪乃の曾祖母。 シゲ爺＝茂三のこと。 ヤッケ＝防寒用の上着。

(村山由佳「雪のなまへ」より)

問四 4 立ち尽くしたままためらつてゐるとあるが、雪乃が立ち尽くしたままためらつてゐるのはなぜか。四十五字以上五十字以内で

まとめて書きなさい。ただし、「声を」という言葉を使い、「茂三が自分に対して」という書き出しに続けて書くこと。

問五 5 雪乃は、頷いたとあるが、次の文は、このときの雪乃の様子に

ついて、本文を踏まえてまとめた一例である。A、Bに入る最も適切な言葉を、それぞれ本文中から抜き出して書きなさい。ただし、字数はA、Bにそれぞれ示した字数とする。

茂三との約束を守れず落ち込んでいたが、自分で起きようと決めて、A(十二字)ことを誇りに思えばよいという茂三の言葉のおかげで、目標のB(八字)と感ずることができ、自分の行動を肯定的に捉えてくれる茂三を、改めて大好きだと思つてゐる。

解答用紙

50 ページ

模範解答

59 ページ

【問二】 次の文章は、小学六年生の雪乃が、曾祖父（父の祖父）である茂三と早朝から農作業をすると約束をしていたが、寝坊してしまった場面を描いたものである。これを読んで、後の問いに答えなさい。

慌ててパジャマのまま台所へ飛んでいくと、ヨシ江が洗い物をしているところだった。

「シゲ爺は？」

「ああ、おはよう。」

「おはよ。ねえ、シゲ爺は？」

「さっき出かけてっただわ。」

「うそ、なんで？」

ほんのちよつと声をかけてくれたら、すぐ起きたのに、どうして置いていくのか。部屋を覗いた曾祖父母が、
「よく眠ってるだわい」〈可哀想だからこのまま寝かせとくだ〉などと苦笑し合う様子が想像されて、地団駄を踏みたくなる。

「どうして起こしてくんなかったの？ 昨日あたし、一緒に行くって言ったのに。」

するとヨシ江は、スポンジで茶碗をこすりながら雪乃をちらりと見た。

「起こそうとしただよ、私は。けどあのひとが、ほっとけって言うだから。」

「……え？」

「雪乃が自分で、まっつと早起きして手伝うから連れて行って言っただわ。こつちが起こしてやる必要はねえ、起きてこなけりや置いてくまでだ」って。

心臓が硬くなる思いがした。 2 茂三の言うとおりだ。

無言で洗面所へ走ると、超特急で顔を洗い、歯を磨き、部屋へ戻ってシャツとジーンズに着替えた。ぼさぼさの髪をとかしている暇はない。ゴムでひとつにくくる。

土間で長靴を履き、

「行ってきます！」

駆け出そうとする背中へ、ヨシ江の声がかかった。

「ちよつと待たない、いつてえどこへ行くつもりだよ。」

雪乃は、あ、と立ち止まった。そうだ、今日ほどの畑で作業しているかを聞いていない。

「そんなにまっつくるけえして行かんでも大丈夫、爺さんは怒っちゃいねえだから。」

ヨシ江は笑って言った。「まっつくるけえして」とは、慌てて、という意味だ。目の前に、白い布巾できゅつとくるまれた包みが差し出される。

「ほれ、タラコと梅干しのおにぎり。行ったらまず、座ってお食べ。朝ごはん抜きじゃあ一人前に働けねえだから。」

「……わかった。ありがと。」

「急いで走ったりしたら、てっくりけるだから、気をつけてゆっくり行くだよ。雪ちゃんが後からちゃんとして行って、爺さんにはわかってただわい。いつもは出がけにならんも言わねえのに、今日はわざわざ『ブドウ園の隣

問一 1 すぐと同じ品詞の言葉を、ア～エから選び、符号で書きなさい。

ア 静かな環境で学習する。 イ 日が暮れるまで練習する。

ウ 部屋をそつと出る。 エ 早い時間に出発する。

問二 2 茂三の言うとおりだがあるが、このときの雪乃の気持ちとして最も適切なものを、ア～エから選び、符号で書きなさい。

ア 初めは起こしてもらえなかったことに悲しさを感じていたが、ヨシ江から茂三の言葉を聞き、自分は茂三との約束を守っていたのだと気づき、満足している。

イ 初めは起こしてもらえなかったことにいらだちを感じていたが、ヨシ江から茂三の言葉を聞き、自分の言動の無責任さに気づき、後悔している。

ウ 初めは起こしてもらえなかったことに寂しさを感じていたが、ヨシ江から茂三の言葉を聞き、自分に対する期待の高さに気づき、うれしくなっている。

エ 初めは起こしてもらえなかったことに怒りを感じていたが、ヨシ江から茂三の言葉を聞き、自分の思いが茂三に誤解されていたことに気づき、残念に感じている。

問三 3 雪乃は、やっぱり走りだしたとあるが、このときの雪乃の気持ちとして最も適切なものを、ア～エから選び、符号で書きなさい。

ア ゆっくり行こうとしたが、体全体がすっかり冷えていたので、体を動かして早く温まろうと考えるようになった。

イ ゆっくり行こうとしたが、あたりが十分に明るいことに気づき、このままでは朝ごはんが食べられないと焦りだした。

ウ ゆっくり行こうとしたが、よその家の明かりを見て、薄暗い中を一人で歩くことを不安に感じた。

エ ゆっくり行こうとしたが、周囲の農家の様子がわかるにつれて、のんびりしてはいられないと思直した。

いいことも悪いこともする、どうしようもない失敗もしてしまう、それが人間という厄介なイキモノだ。AIよりずっと効率が悪い。それでも、覚えた「正解」以外の「別解」をいくつも見つけ出せるのは人間の強みである。人間が生きていくなかでは、合理的に解決できないことがいくらかでもある。そんなとき、自由な発想でどうハードルを飛び越えるか、そこに人間の値打ちが出てくるのではないだろうか。

一見、成功した人ほど値打ちが上がるように思えるが、失敗を繰り返すプロセスがなければ成功は生まれない。ということは、失敗が多いことが値打ちにつながることもあるわけだ。

人間は昔から失敗をするイキモノだった。約三百十八万年前にエチオピアにいたアウストラロピテクスの「ルーシー」に逢いにいった。エチオピア国立博物館だ。猿人なのに木から落ちていた可能性があるという。ルーシーの化石をCTで調べると、右上腕骨が骨折しており、「落下して地面にぶつかったときに、衝撃を弱めようと腕を出して起こる圧迫骨折」の跡ではないかと推測されている。そうであれば、人間の値打ちは失敗から始まっている、ということになる。木から落ちる失敗こそ、ホモ・サピエンスを生み出す幕開けだったのだ。

「ルーシー」が木から落ちてしまったのは、直立二足歩行をするようになったアウストラロピテクスが地上で生活することが増え、旧猿人の時代よりも木登りの能力が退化したからではないか。サルであれば手のように器用な能力があった足を、人類の祖先はあえて退化させ、その代わりに直立二足歩行をすることで両手の機能を高めた。「木から落ちる」という失敗で別の道を見出していったのだ。

原始時代、空いた両手を使って、人類の祖先は道具を使い出し、狩りをし、火を用いるなど肉を効率的に食べる方法を編み出して、脳を発達させていった。手を使って食べ物運び、貯えた。

やがて彼らは大いなる好奇心を持ってアフリカを出て、世界中に広がるグレートジャーニーの旅を始める。そして家族をつくり、コミュニティで助け合いながら、進化を続けてきた。

だが今、人間は進化の旅の途上で途方に暮れているように見える。人間の価値が見えにくい時代だからこそ、人間クササの復興が大仕事。AIに「いらぬ」と言われてしまうような人間のどこに価値があるのか、人間の値打ちを見つめ直しながら、考えていきたいと思う。

(鎌田 實「人間の値打ち」より)

(注) CT II 放射線などを用いて、物体の断層画像を撮影する方法。

5 この文章について説明したものとして、最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 「いいのだ」、「あるわけだ」と断定的な文末表現にすることで、読み手が筆者の考えに共感できるように工夫している。

イ 「人間クサイ」や「イキモノ」などカタカナで表記することで、人工知能に対する筆者の肯定的な立場を強調している。

ウ 「東大ロボ」や「ルーシー」など複数の具体例を挙げることで、筆者の考えが説得力をもつて伝わるよう工夫している。

エ 「今」、「だが今」を最初と最後の段落の冒頭に用いることで、筆者の立場が一貫したものであることを強調している。

解答用紙

50 ページ

模範解答

59 ページ

【問一】 次の文章を読んで、下の各問いに答えなさい。

今、時代は大きく変わろうとしている。急速なスピードで進化するAI（人工知能）の存在は、「人間を超えていくのではないか」という一種のおそれを芽生えさせている。少し前まで「人間には勝てない」と言われていた将棋や囲碁でも、あつと言う間にトップ棋士がAIにかなわなくなった。

そんな時代にこそ、人間の値打ちが問われてくる。今以上におもしろい人間が出てくるような気がする。早過ぎることはない。今からAIにはできないような生き方を始めればいいのか。優れたAIがつけられればつくれるほど、やさしく、想定外にあったかく、強く、破壊力のある人間クサイ人間になってやる、と自分に言い聞かせている。

今後十〜二十年で、事務員や秘書といったオフィスワーカーや、小売店販売員や飲食店接客係、スーパーのレジ打ち係、ビルの管理人、タクシーやトラックの運転手などの職業は、AIも含めた機械に取って代わられていくと言われている。実際、人型ロボットの接客が少しずつ導入され始めている。「人間より気をつかわなくて済むのがいい」と言うお客さんもいるようだ。

教育という「人間を育てる」場所にも、インターネットがどんどん進出してきている。アメリカの大学では、ネットを使った遠隔授業ができる大学が人気を集めつつある。キャンパスに通わなくても、世界のどこにいても、パソコンを開けばすぐに一流の授業を受けることができ、費用も従来の大学より安いとあって、学生からは好評のようだ。

効率がいいが、こうなると、教育ってなんだろう、と思ってしまう。そのうち、教室にいるのはロボット先生だけ、子どもたちはパソコンやタブレットで勉強する、ということになるかもしれない。そのとき、人間の先生は「いらぬ」と言われてしまうのだろうか。興味深いことに、今のところAIは東大に入れないことがわかったのだという。国立情報学研究所が二〇一一年にスタートした「ロボットは東大に入れるか」プロジェクトは、東大に合格できるAIの開発を二〇二一年春を目標に進めてきた。東大ロボの強みは、驚異的な計算力や暗記力。a、難しいのは「意味を理解する」ことだ、とプロジェクトのリーダーである新井紀子教授は言う。問題文の意味を理解できないと解けないタイプの問題については、現在の技術ではブレイクスルー（突破）できない、それがプロジェクト凍結という結論につながった。

AIは、大量の情報を効率的に処理し、最適化する。技術が進めば進むほど、これからの世のなかは、効率が重視されるようになっていくだろう。だが、「意味を理解できない」AIが導き出す「最適」な答えが、人間が求めるものと同じとは限らない。

極端な話、「地球環境を守るためにはどうすればいいか」という課題を与えられたら、AIは「人間がいなくなる」とためらいなく答えるのではないだろうか。人間こそが、環境に負荷を与える最大の原因なのだから、AIは「そんな人間に価値はない」と判断すると思う。

1 線部ア〜エの中から、品詞が他と異なるものを一つ選び、記号で答えよ。

2 本文中のaにあてはまる語として、最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア だから イ しかも
ウ つまり エ しかし

3 次の文は、線部のように筆者が考える理由について説明したものである。I・IIに適切な言葉を補え。ただし、Iには本文中から句読点を含めて十三字で抜き出して書き、IIには三十字以内の言葉を考えて答えること。

AIは、多くの情報をIことが可能だが、人間が生きていくことを前提とした課題である場合でも、IIことに何の迷いももたないのではないかと思われるから。

4 筆者は、本文において「人間の値打ち」とは何だと考えているか。六十五字以内で書け。